



とがみ

「やさしく かしく たくましく」

山形市立滝山小学校

学校だより 第6号

令和7年12月23日

自分たちのよさや小さな伸びを認め、次のエネルギーに!

今日で2学期が終了し、明日から冬休みになります。学習の充実期でもある2学期。子どもたちが真剣に学習し、確かな成長を遂げた数々の姿を思い返すとうれしくなると同時に、一人一人の成長をみんなで認め合いたいと思います。2学期の教育活動にご協力いただいた保護者・地域の皆様に改めて感謝申し上げます。

話は変わりますが、最近下記のような文章を見つけました。

日本人は何故日本という存在に自信をもたないのだろう。

何故、外国の物は尊重し、日本の物は卑下するのだろう。

歌麿や北斎や写楽も、逆輸入されて、はじめて尊重されるようになったが、

この識見の無さはどういうわけだろう。

悲しい国民性というほかはない。

黒澤 明 著『蝦蟇の油—自伝のようなもの』より

この黒澤 明 氏(映画監督 1910-1998 年)の言葉には、日本人が自国の文化や価値に対して自信を持っていない当時(1950 年頃)の現状への憂いが込められています。しかし近年、私たちが見過ごしてきた日本の文化や習慣、考え方が、海外で高く評価され、再び国内で見直される動きも見られます。

そうした中、今「山形」に世界からの注目が集まっています。英字紙「ジャパントゥデイ」は、持続可能な地域の実現に取り組み、世界に発信するに値する日本の自治体を認定する「ジャパントゥデイ ディスティネーション・リージョン」の第1号に山形市を選定しました。山形県も米誌「ナショナルジオグラフィック」の「行ってみたい世界の旅行先 25」に日本で唯一選ばれたばかりです。これは、私たちが自らの足元を見つめ直す好機でもあります。

さて、学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。正式な結果報告は後日になりますが、アンケートから浮かび上がった「今年度の滝山っ子」のよさをまとめてみると・・・

思いやりの心を持ち友達と協力しながら学校生活を送っている。各教科や総合的な学習、行事等で自分のめあてや考えを持ち、友達と対話しながら活動している。そして、「自分にはよいところがある」、という自己肯定感が高まってきている。

アンケート集計を見て特にうれしく思ったのは、「思いやり・やさしさ」、「自己肯定感」「自分の考えをもつ」「最後までチャレンジ」のポイントが高かった、又は昨年度よりポイントがアップしたことです。目指す子どもの姿に近づいていると捉えることができるのではないのでしょうか。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果から、山形県の小学6年生の自己肯定感は全国平均を上回るという明るい傾向が見られましたが、日本全体としては、若者の自己肯定感が国際的に見て低い水準(学年が上がるにつれ低くなっていく傾向)にあるという調査結果もあります。国際的な学力調査では読解力や数学的思考力が高く評価されている一方で、「自分で学習計画を立てる」「自力で学習を進める」といった自律的な学習に対する自信の低さが課題として浮かび上がっています。これは、自己肯定感の低さが学習への自信の欠如につながっていることを示しており、教育に携わる者にとって見過ごせない重要なテーマです。

また、数値で測れる学力だけでなく、非認知能力と呼ばれる「意欲」や「自信」、そして「忍耐力」等の育成も、これからの教育においてますます重要になっていくと考えています。日本の教育が、子どもたち一人ひとりの自己肯定感を育むものであるべきだという視点を再認識したいと思います。

私たちが住む日本、山形県、山形市、滝山地区には、他に誇れる素晴らしい歴史と文化、人材等の教育資源があります。そうした環境を活かしながら教育活動を進め、子どもたちの自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、「みんなが笑顔の滝山小」を目指していきます。

それでは、皆様よいお年をお迎えください。